

春の叙勲に本学から4氏 ブルガリアフェアを開催 ～ソフィア大学「聖クリメント・オブリドスキ」 との大学間交流協定締結を機に～ 新入留学生オリエンテーションを実施





令和4年度Integrated Science Program (ISP) 修了式を挙



令和4年度新渡戸カレッジ修了式 (学部教育コース) を挙

全学ニュース

- 1 春の叙勲に本学から4氏
- 5 令和4年度Integrated Science Program (ISP) 修了式を挙
- 6 令和4年度新渡戸カレッジ修了式 (学部教育コース) を挙
- 7 新入留学生オリエンテーションを実施
- 8 札幌市のIT関連業界による留学生向け合同企業説明会「SAPPORO IT JOB FAIR」開催
- 9 ブルガリアフェアを開催 ～ソフィア大学「聖クリメント・オフリドスキ」との大学間交流協定締結を機に～
- 10 2022年度春季国際インターンシップ全学成果報告会を開催
- 11 令和5年度第1回 定例記者会見を開催
- 12 北大フロンティア基金
- 15 きたキッチンで「北海道大学フェア」を開催
- 16 国際連携研究教育局 (GI-CoRE) バイオサーフィス創薬グローバルステーション (GSD) が「第3回GI-CoREバイオサーフィス創薬グローバルステーション (GSD) 国際シンポジウム・第1回 学術変革領域研究 (A) 物質共生国際シンポジウム・第28回 ファーマサイエンスフォーラム合同シンポジウム」を開催
- 17 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 北海高校、札幌龍谷高校で5名の教員が講義を実施

部局ニュース

- 19 令和5年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第3期生採用式を開催
- 20 先端生命科学研究院の業績功労者を表彰
- 20 歯学研究院でAMED申請セミナーを開催
- 21 工学研究院が北海道ガス株式会社と連携協定締結式・記者会見を開催
- 22 セブン-イレブン北海道大学工学部店オープン
- 23 水産科学研究院と北海道美深町及びソフトバンクが次世代のチョウザメ養殖のための産学官連携協定を締結
- 24 東アジアメディア研究センター主催のジャーナリズムシンポジウムを開催
- 25 環境健康科学研究教育センターがG7環境大臣会合に先駆けた若者との共創プロジェクトを開催
- 26 脳科学研究教育センター脳科学専攻の開講式を挙

研修

- 27 令和5年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修 (一般職)

人事 28

- 29 新任教授紹介
- 29 新任部課長等紹介

訃報

- 30 名誉教授 飯田 正一 氏



2022年度春季国際インターンシップ全学成果報告会を開催



令和5年度第1回定例記者会見を開催



きたキッチンで「北海道大学フェア」を開催



令和5年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第3期生採用式を開催

表紙：令和5年度第1回 定例記者会見を開催 (関連記事11頁に記載)

裏表紙：キャンパス風景[®] 医学部 (北15条西7丁目)

■全学ニュース

春の叙勲に本学から4氏

この度、本学関係者の次の4氏が、令和5年春の叙勲を受けることについて、4月29日（金）に発表となりました。

勲章	経歴	氏名
瑞宝中綬章	北海道大学名誉教授	野口 徹
瑞宝中綬章	北海道大学名誉教授	佐伯 昇
瑞宝中綬章	北海道大学名誉教授	山村 悦夫
瑞宝単光章	元 北海道大学病院看護部看護師長	山田 千津子

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。なお、山田千津子元看護師長については、本人の意向により感想等の掲載を省略いたします。

(社会共創部広報課)



のぐち とおる
野口 徹 氏

感想

この度の瑞宝中綬章の受章は大変光栄なことです。推薦くださった方、ご尽力戴いた方々に対し、篤く御礼申し上げます。

子供の頃から、産業界の技術者になるのが私の夢でした。それで北大工学部の機械科に進学したのですが、全くの偶然から大学院に進み、さらに大学の教員、研究者の道に入ることになりました。現在の専門分野、機械工学・材料工学もまた偶然からの選択でした。それ以来、学外を含め多くの良き先輩の方々から教を戴き、また同僚、仲間達に支えられて今日に至っています。優秀な、また個性あふれる学生の皆さんとともに学んだことも素晴らしいことでした。

工学の研究課題を技術実践の場から見つけることは、恩師岡金吾先生の教えでした。最初の研究テーマ、構造材料、特に casting 材料の強度と破壊の研究も産業界の要請に基づくものでした。特異な力学挙動を示す cast iron に対し、有限要素法による非線形応力解析を適用し、種々の力学条件下での変形と破壊の機構を明らかにすることができました。これが工作機械や建設関係の cast part 等の強度設計に応用されました。

材料の破壊による産業事故の原因調査も公官庁等からの要請によるものでした。機械工学の力学的視点と金属工学の微視的視点の両方の応用によって幾つかの事件を解決できたことがきっかけとなり、多くの事故、破損事例の調査に当たりました。その後も警察、裁判所、海上保安庁など

公的機関からの鑑定その他、数百件の破損事例の調査を行い現在に至っています。

学位取得後、短期間でしたが米国の大学で研修する機会がありました。ここでは産業界と連携した研究の進め方と、特に大学院における教育の実践法を学びました。 casting による異種材料の接合・複合化の研究は公設試験研究機関及び産業界と連携した研究でした。界面の凝固経過に着目して接合の基礎理論を作りましたが、これが実際に大型トラックの足回り部品の製造、大量生産に実用化されたことは大きな喜びでした。

教育については、学生が技術実践の場を経験すること、さらに海外で主体的に行動できることの重要性と教育効果を感じていました。このために国際インターンシップの制度を推進し、多くの優秀な学生を世に出すことができたのも嬉しいことでした。

これらのことから、現在もお産業界と連携した活動の機会を得ていることは大変有難いことです。これまで学内外の多くの皆さん、並びに産業界の方々からご支援とお力添えを戴きました。学生さん達を含め、ご縁のあった全ての皆さんに心から感謝の意を表します。またこれまで支え続け、力を与えてくれた家族に感謝します。

功績等

野口 徹氏は、昭和43年4月北海道大学工学部講師に採用され、平成元年4月北海道大学工学部教授に昇任して機械工学第二学科、機械材料学講座を担当した。平成9年4月には、大学院工学研究科教授に配置換えとなり、機械科学専攻、設計機能工学講座、材料機能学分野を担当した。工学研究科組織変更により、平成14年4月からは機械宇宙工

学専攻、機械フロンティア工学講座を担当した。本学に奉職以来39年間、学生の教育並びに機械工学、機械材料工学の発展に尽力され、平成19年3月に定年により退職された。

教育面では、工学部機械工学科及び機械工学第二学科において機械材料試験法、機械材料学、材料工学などの講義並びに機械工学実験、機械設計演習、ラボラトリセミナー等の実験演習を担当した。大学院では機械材料学特論、材料安全工学特論、材料機能学特論、機械工学ゼミナール、機械科学特別演習等を担当した。また1年目及び2年目学生に対する専門導入教育科目である物理工学コロキウム及び機械知能工学入門の講義を担当した。

研究面では、機械材料学、特に鋳造工学と材料強度の研究において顕著な成果を上げた。研究テーマは大きく(1) 鋳鉄材料の強度特性評価とその応用、(2) 鋳造を利用した異種材料及び部材の複合化、及び(3) 材料の破損解析技術の応用、の三つである。テーマ(1)では、鋳鉄に対して有限要素法による非線形応力解析を適用し、引張り、曲げ、切欠き、疲労等における特有の挙動を、基地の塑性変形による延性挙動及び破壊の発生伝播機構の特異性として統一的に取扱う理論を完成させた。テーマ(2)では、鋳鉄と鋼を鋳造と同時に接合、複合化する「鋳ぐるみ」を理論的に考究し、接合界面での凝固現象に着目した鋳造接合の基礎理論を確立し、信頼できる製造法として実用化する基礎を作った。テーマ(3)では、機械、構造物の破損破壊の原因調査に応用された。機械工学の力学的観点と金属工学の組織的微視的観点を融合した独自の解析手法を確立し、昭和43年以来、警察、裁判所、労働基準局、海上保安庁等の公的機関依頼により、破損事故の原因調査鑑定に携わった。

北海道大学定年退職後は、同大学工学研究科特任教授、客員教授として工学系教育研究センターのセンター長等を勤め、大学院教育における産業界及び海外機関との連携を推進した。

以上、学生の教育、学術研究の発展、本学の運営、並びに機械材料学分野の発展に対する貢献は極めて大なるものがあつた。

略 歴

生 年 月 日	昭和18年5月10日
昭和43年 4月	北海道大学工学部講師
45年10月	北海道大学工学部助教授
平成 1年 4月	北海道大学工学部教授
8年 4月	北海道大学工学部機械工学第二学科長
9年 3月	
19年 3月	定年退職
19年 4月	北海道大学名誉教授
19年 4月	北海道大学特任教授
20年 3月	
21年 4月	室蘭工業大学理事
24年 3月	
21年 4月	室蘭工業大学副学長
24年 3月	

(工学院・工学研究院・工学部)



さ え き のほる
佐伯 昇 氏

感 想

叙勲受章の榮譽を賜わり深く感謝を申し上げます。受章はこれまで支えてくださった先生方、同僚、先輩、友人、後輩、家族、先祖の御蔭によるものであります。厚く感謝を申し上げると同時にさらに社会に対して貢献しなければならないと考えます。

思えば、北大に入り土木に移行し、大学に残りコンクリート工学を学生に教え、研究する道に進みました。能力のない自分が学生に教えることはかなりの刺激になりました。コンクリートを自然に優しい材料への展開、寒冷地コンクリートの劣化制御するための開発、月面コンクリートの挑戦など多くの試みを行いました。阪神淡路大震災からさらに東日本大震災と続き、災害と技術倫理に関心が引かれるようになりました。技術倫理は不祥事問題を抑えながらも、一歩進めて構造物の将来の大きな外力等のリスクを考え、将来50年、100年と供用されるものに対して子供達にも安全であり、破壊したとしても強靱性を保ち、生存能力、最低の使用性を確保し安心を増すような方向を重要視します。より安全で高性能な構造物を造るには技術倫理を基本とし、長年月のリスクを考慮するための資金力の確保が必要であり、技術者もとより市民の力を必要とします。北海道生コンクリート品質管理監査会議もその一端を担っています。

さて、我々は国難のなかに入りつつあります。容易ではないことが予想されます。先に述べたように大規模地震の可能性、災害の多発、温暖化、疫病、少子高齢化などの問題から始まり、多くの国々の国際的不和、経済の停滞、人々の疲弊から自己中心的、無関心の世の中に進みつつあると思います。日本人の心の中には何千年前より培われた大災害に耐えぬいたDNAが温存しています。安全文化、連携の倫理が蓄積しています。これからの役割として頭に浮かんでくることは、技術倫理とボランティアの連携による情報と支援のネット化、学生の技術倫理の志と覚悟の自律、技術者は技術倫理について話し合い、他社との情報交換体制を作ること、これまで起った大災害の教訓を分析し、インフラの強化、設計法の向上、津波に対する備え、実践的な対応と住民による町づくり体制などが重要と考えています。一般社団法人第三者社会基盤技術評価支援機構・北海道も少しでも力になりたいと考えています。

さらに災害後において、人々の絆の和が人間としての生きがい形成するにはどうするのが良いのか、悩みは尽みません。このような中での受章は心の中に大きな力が生まれました。新たに出発することが可能となりました。受章に深く感謝し晴れやかに出発したいと思います。

功績等

佐伯 昇氏は、昭和47年4月に北海道大学工学部講師に採用され、平成2年4月には同教授に昇任し、土木工学科コンクリート工学講座を担当された。平成9年4月には、北海道大学大学院工学研究科教授に配置換になり、社会基盤工学専攻環境構造材料工学講座の教授として、高性能コンクリート工学分野を担当された。平成17年3月31日限り定年により退官されるまで、コンクリート工学及び構造工学の発展に尽くされた。

昭和47年以降の在任中、学部においては、コンクリート工学、コンクリート構造学、コンクリート工学実験、測量学、測量学外実習、寒地工学、複合科目（環境と人間）インフラストラクチャのあり方、構造設計製図など、また大学院工学研究科においては、コンクリート工学特論、環境構造材料工学特別演習、環境構造材料工学特別研究第一、環境構造材料工学特別研究第二、英語特別コースでは、High Performance Concreteなどの講義、演習を担当されるとともに、学部学生並びに大学院生の研究指導に当たられ、多くの技術者や研究者の育成に貢献された。その間、JABEEプログラム責任者として土木及び土木関連プログラム認定、特に技術論理に尽力された。

研究面では、主にコンクリート工学の分野、とくに耐久性、破壊挙動、構造設計、新材料、維持管理に関する分野において顕著な業績を挙げられた。寒冷地において避けられないコンクリート凍害に対して、ASTM方式の問題点を提示し、新たにRILEM方式の導入により、より実態に対応する耐凍害性の解明を行い、国内での新しい耐凍害性の評価法に関する先駆的な役割を示した。さらに、維持管理のための補修補強に対してFRP繊維あるいはシートによるプレストレス導入工法（特許取得）などの開発を他の研究者に先駆けて行い、日本が現在この分野における最も進歩した国の一つとなる基盤を作られた。

社会活動では、社会福祉法人恵望会理事長をはじめ、北海道の技術アドバイザーや地域活性化アドバイザー、特定非営利活動法人水環境北海道理事長、一般社団法人第三者社会基盤技術評価支援機構・北海道代表理事、北海道生コンクリート品質管理監査会議議長などを務められ、社会に多大な貢献をされた。治水、水環境につくした功績により日本環境共生学会から日本環境共生学会環境共生活動賞特別賞を受けている。また公益のための教育環境向上のための私財寄附により紺綬褒章を内閣府より授与された。

以上、学生の教育、学術研究の発展、本学の運営、並びにコンクリート工学分野の発展に対する貢献は極めて大きなものがあつた。

略 歴

生 年 月 日	昭和17年3月26日
昭和47年 4月	北海道大学工学部講師
48年 4月	北海道大学工学部助教授
平成 2年 4月	北海道大学工学部教授
5年10月	北海道大学工学部土木工学科長
6年 3月	
17年 3月	定年退職
17年 4月	北海道大学名誉教授

(工学院・工学研究院・工学部)



やまむら えつお
山村 悦夫 氏

感 想

このたびは叙勲の栄誉を賜り、身に余る光栄に存じます。関係された皆様に感謝申し上げます。このことは、これまで恩師の（故）

小川博三先生はじめ、良き師・海外の研究者・学生・留学生に恵まれた幸運の結果とも思います。

私は、米国ペンシルベニア大学で多くの先生にご指導いただき、1年でMaster of Artsを修了することができたとともに、その間に先輩である学習院大学大学院名誉教授の（故）川嶋辰彦先生のご尽力により、地域学もマスターすることができました。

その後、北海道大学に学際的な我が国最初の環境科学研究科が設立され、そこで地域計画学講座に移りました。この研究科は、優秀な学術博士を輩出する研究科だったので、世界中から研究者や留学生が多数集まり、彼らを指導いたしました。その彼らが世界各国の教授として現在活躍していることは大変な喜びです。しかしそのような中、インドからの日本国費留学生で学術博士を習得し、卒業後はインドで環境問題のリーダーとして活躍していたティルムルティ教授が若くして急逝したことは、痛恨の極みでありました。

論文執筆活動において、著書である地域計画学の最初の専門書『地域計画論』、『地域均衡発展論』、『モデル規範適応理論』を発刊しておりますが、これらは教科書として活用されました。

一方、学会活動においては、国際創造学会を発足させ、国際誌『International Journal of Environmental Creation』を発刊し、編集委員長として世界を大陸別に編集委員を定めて、多くの環境に関する論文を掲載するとともに、同学会理事長として、世界の環境の研究者に『国際環境創造賞』を多数授与致しました。現在これらの研究者は、各国の環境に関する指導者として活躍していることから、同国際誌は、今の国際的な地球環境の時代における先駆けとして大きな役割を果たすことができました。

そのほかにも、日本地域学会の副会長、会長を歴任し、多くの研究者を育て、これらの業績によって、日本地域学会論文賞、日本地域学会功績賞を受賞することができました。その後、地理情報システム学会副会長、会長、東京大学客員教授を兼任して『ゆびきたす時代』を発刊、そこで「森羅万象には時刻と位置がある」を提唱し、今皆様が活用しているGPS・GISについて、技術の習得や社会全体への啓発と普及などの推進を図り、加えて准天頂衛星の打上げの基礎を担当したことで、これらの業績に対し、英国IBCからLEGION賞を受賞致しました。これをもとに今後益々、GPS・GISの技術が世界平和のために活用されることを願っています。

私は、北海道経済産業局の尽力によって、千歳空港の国際化の調査で調査団長として2年間世界中の空港を調査して「エアロポリス構想」を提唱しておりましたので、今後は千歳臨空団地に半導体先端企業が立地、連携、拡張の展開が順調に行くよう尽力致したいと思います。

最後に、この度の受章にあたりまして関係教職員の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

功績等

山村悦夫氏は、昭和40年3月北海道大学理学部数学科を卒業し、昭和41年4月に北海道大学工学部助手に採用され、昭和48年12月に工学博士の学位を取得した後、昭和50年4月に同学部助教授に昇任、昭和52年4月に北海道大学大学院環境科学研究科に配置換となり、昭和56年9月に同研究科教授に昇任、平成5年4月に北海道大学大学院地球環境科学研究科に配置換となり、平成17年3月定年により退官されました。

同氏は、幅広い分野を包含する環境科学及び環境工学の中でも、地域計画学、都市計画学、環境計画学、環境創造論、地理情報システム論、地域環境交通学を始めとする幅広い教育・研究活動に従事し、同人の構築した「モデル規範適応理論」による解析に必須となる地理情報システム（GIS）・衛星測位システム（GPS）技術は、民間も含めた社会全体に対しての啓発と普及を図るとともに、数多くの海外からの大学院生の受入れ、海外、特に発展途上国へのモデル規範適応理論の導入とGIS・GPSの普及を通して人材育成に尽力されました。

同氏の研究は、地球スケールから地域スケールまでの様々な空間スケールでのエネルギー・人口・環境問題を解決する研究基盤を構築するものであり、適用範囲も様々なスケールに拡張され、それらの成果は国の内外を問わず高く評価され、これらの研究に対して、平成5年に日本地域学会論文賞、平成16年に日本地域学会功績賞を受賞されている。

同氏はまた、地球環境科学を始めに多岐にわたる関連分野に関する国内外の多数の学会に所属し、日本地域学会副会長、同学会学会長、地理情報システム学会会長などの役員を歴任し、学術の発展に大きく貢献されました。

以上のように同氏は、環境科学、地球環境科学、環境工

学分野において幅広い研究分野を包含し、さらには経済学や社会学などの社会科学分野をも内包するに至る多くの優れた研究業績をあげ、学術の進歩と発展に多大な貢献をするとともに、北海道大学工学部、大学院工学研究科、大学院環境科学研究科、大学院地球環境科学研究科において多くの学生・院生の教育と指導及び後進の育成に尽力し、大学の発展に大きく寄与したものであり、その功績は誠に顕著であります。

略歴

生年月日	昭和17年2月17日
昭和41年 4月	北海道大学工学部 助手
50年 4月	北海道大学工学部 助教授
52年 4月	北海道大学大学院環境科学研究科 助教授
56年 9月	北海道大学大学院環境科学研究科 教授
平成 5年 4月	北海道大学大学院地球環境科学研究科 教授
17年 4月	北海道大学 名誉教授

(地球環境科学研究院)

令和4年度Integrated Science Program (ISP) 修了式を挙

外国人留学生を対象とした理系の学士課程・修士課程プログラムである「Integrated Science Program (インテグレイテッドサイエンスプログラム) (ISP)」の修了式を3月22日(水)に高等教育推進機構において挙りました。本プログラム初の修了生となった、平成29年10月入学の第1期生2名の門出を祝い、プログラム長である山口淳二理事・副学長をはじめ、鈴木久男教授 (ISP副プログラム長)、永井隆哉教授 (理学院院长) が参列し、厳粛な中

にも和やかな雰囲気です式典が執り行われました。

山口理事・副学長から修了生に修了証書が授与された後、祝辞が述べられ、母国から遠く離れた日本で、様々な困難を乗り越えて学業を成し遂げた二人に対し、ISPのフロンティアとして新たな道を切り開いたことを称えると共に、本プログラムを通じて身につけた知識や経験を活かして、今後もグローバルに活躍することを期待する言葉が贈られました。

続いて、修了生のスパポルタウォン・スパコーンさんとランジャニさんがスピーチを行い、ISPへの思いや関係者への感謝の言葉を述べました。

最後は、式典を見守っていた先生方、ご家族、後輩学生も交えて、記念撮影が行われ、ISPを巣立つ二人の前途を祝しました。

(学務部教育推進課)



式典参加者の記念撮影



修了生によるスピーチ (スパコーンさん)



修了生によるスピーチ (ランジャニさん)

令和4年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙行

令和4年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を3月23日（木）に高等教育推進機構のN1教室にて挙行了しました。修了式には修了生30名のうち16名が出席し、寶金清博校長（総長）、山口淳二校長代理（理事・副学長）、弮 和順副校長、杉江和男副校長及び新渡戸カレッジ関係教職員の祝福を受けました。

式では、修了生を代表して、水産学部海洋生物科学科卒業の二通健太さんに寶金校長から修了証書が授与されま

した。次に寶金校長が挨拶を行い、挨拶のなかで、寶金校長は所属学部と新渡戸カレッジ両方のカリキュラムを修了した学生たちの努力を労い、各自がこの経験をこれからの人生に生かし、グローバルリーダーとして活躍することを期待すると激励しました。修了生代表の挨拶では、水産学部海洋資源科学科卒業の北村もあなさんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負を述べました。さらに校友会エルム会長で新渡戸カレッジ副校長でもある杉江

氏と新渡戸カレッジフェローの佐々木亮子氏から激励の言葉が修了生に贈られました。この後、式は滞りなく進み、無事に終了しました。

終了後、出席者全員で記念写真を撮り、またお世話になった教職員と写真を撮る姿があちこちで見られ、皆名残惜しそうに会場を去って行きました。

（学務部教育推進課）



修了証書の授与



寶金校長の挨拶



修了生代表による挨拶



出席者全員での記念撮影

新入留学生オリエンテーションを実施

3月30日（木）、4月に入学する外国人留学生を対象として、新入留学生オリエンテーションを開催しました。

このオリエンテーションは留学生が一日も早く北海道大学での学生生活に慣れ、戸惑いや不安を解消し新しい環境へ適応してもらうことを目的としています。オリエンテーションは英語セッション、日本語セッションの2部構成で進められ、25の国と地域から新しく渡日した合計134名の新入留学生が参加しました。

オリエンテーションでは、ラフェイ・ミシェル・ケイ総長補佐の挨拶に続き、留学生相談室のカウンセラーから日本の学生生活に適應するためのヒントについての説明がありました。警察からは日本の交通ルールやサイバーセキュリティについての説明がなされたほか、新渡戸カレッジ、キャリアセンター、情報セキュリティ、北図書館及び保健センターの紹介に加え、サポートデスクのスタッフによる留学生に対する様々なサポートや茶話会、ラン

ゲージコーナーの紹介があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

オリエンテーション終了後はサポートデスクのスタッフが希望者に対し、日本語・英語・中国語の3言語でキャンパスツアーを実施し、留学生たちはこれから過ごすキャンパス内を散策しながら構内の施設についての説明を受けました。

(学務部学生支援課)



25の国と地域から新しく渡日した留学生が一堂に会した学術交流会館小講堂の様子



キャンパスツアーで留学生サポートデスクスタッフから構内の説明を受ける留学生たち

札幌市のIT関連業界による留学生向け合同企業説明会 「SAPPORO IT JOB FAIR」開催

3月16日（木）、札幌市と北海道大学キャリアセンター、ジョブキタインターナショナルの産学官連携で北海道大学の外国人留学生と、札幌市近郊の外国人留学生を対象とした合同企業説明会を開催しました。

このイベントは外国人留学生から人気の高いIT又はコンサルタント業界であり、かつ勤務地が札幌であるという企業とのマッチング・就労の機会提

供、定着支援を目的として企画されました。

市内のIT・コンサル企業が15社一同に集結し、対面で行われる説明会は貴重な機会ということもあり、会場は熱気で溢れていました。

参加した39名（10か国）の留学生からは、「ITといっても色々」と特色が違うことが分かった」「企業は知っていたが、直接話を聞いて理解が深まっ

た」などの意見があり、企業様からも「優秀な学生と会うことができた」などのお声をいただきました。

今後、様々な業界で、このようなイベント開催を企画していきたいと考えております。

（学務部キャリア支援課）



ポスター



会場の様子

ブルガリアフェアを開催 ～ソフィア大学「聖クリメント・オフリドスキ」との大学間交流協定締結を機に～

4月21日（金）に北海道大学百年記念会館において、ブルガリア共和国への派遣プログラム等を紹介する「ブルガリアフェア」が開催され、21人の学生が参加しました。これは、北海道大学が同国と初めての大学間交流協定をソフィア大学「聖クリメント・オフリドスキ」と締結することを機に企画実施されたものです。

フェアでは、オンラインで駐日ブルガリア共和国大使館からマリエタ・アラバジエヴァ特命全権大使による挨拶とペタル・ニコラエフ一等書記官によるブルガリアの紹介が行われ、続いてソフィア大学「聖クリメント・オフリ

ドスキ」古典・現代言語学部日文学科のゲルガナ・ペトコヴァ教授と学生の皆さんによる大学紹介が行われました。全てが非常に流暢な日本語で進められたこともあり、フェアに参加した学生からはブルガリアの文化や学生生活について積極的に質問が出ていました。

その後、ソフィア大学「聖クリメント・オフリドスキ」に留学経験を持つ文学研究院の菅井健太准教授から、大学院特別教育プログラムOne program for Global Goals (OGGs) におけるブルガリア派遣の授業が紹介され、ブルガリアに魅了された学生からは「もっ

とブルガリアについて知りたい」「ブルガリアにぜひ行きたい」といった感想が寄せられました。

会場では写真パネルが展示されたほか、世界一のバラ生産量を誇るブルガリアならではのバラ祭りの紹介やローズオイルの展示、ソフィア大学「聖クリメント・オフリドスキ」から来学されたヴァラ・ニコロヴァ准教授による食文化の紹介や民族衣装の刺繍についての説明なども行われ、華やかで和やかな雰囲気フェアとなりました。

(学務部国際交流課)



マリエタ・アラバジエヴァ駐日ブルガリア共和国特命全権大使



ソフィア大学「聖クリメント・オフリドスキ」の皆さん



会場にてニコロヴァ准教授(中央)と参加学生



会場とオンライン参加者との記念撮影

2022年度春季国際インターンシップ全学成果報告会を開催

高等教育推進機構では、4月27日（木）に、2023年2月、3月に実施した国際インターンシップの成果報告会を開催しました。

「国際インターンシップ」とは、グローバルに事業を展開する企業・機関等の海外拠点にて、就業体験型として研修を行う実践的キャリア教育プログラムです。研修を通し学生が、国際性とリーダーシップ力を醸成するとともに、グローバルな視点で自らのキャリアや今後の進路について考えることを目的としています。本プログラムは、2016年度に3か国・地域、3拠点、4名を派遣することで試行的に開始され、それ以降、多くの受入企業・機関のご支援の下、年々プログラムを拡充してきました。

2019年度に14か国・地域、48拠点にて実施し、73名を派遣、その後、2020年度・2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外派遣を伴うプログラムの実施は実現しませんでした。しかしながら、2020年度は30名の学生が7か国・地域にまたがる11企業・機関にて、2021年度は68名の学生が、17か国・地域にまたがる23企業・機関にて、オンライン研修に参加することができました。2022年度夏季は、3年ぶりに海外派遣プログラムを実施し、一方で引き続きオンラインにて学生をお受け下さったご支援先もあり、多様な形態での研修実施にて、14か国・地域にまたがる21企業・機関にて49名の学生が研修に参加することができました。

本報告会では、2022年度春季に3か国・地域の5企業のご協力を得てインターンシップに参加した15名の学生が、それぞれ研修で得た学びについて報告しました。支援企業のご担当者や本学学生・教職員など、学内外や研修先海外拠点から多くの方々に対面もしくはオンラインで参加頂きました。学生の報告終了後には、参加企業の方々から本報告会へのご講評及び学生への励ましのお言葉がありました。

高等教育推進機構では、今後も、グローバルな視野を持ち、変化の激しい社会の多様性に対応できる学生を育成してまいります。

(学務部国際交流課)



開会挨拶を行う山口淳二理事・副学長



報告会終了後の集合写真

令和5年度第1回 定例記者会見を開催

4月18日（火）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。行松泰弘理事の進行のもと、D-REDライフスタイルイノベーションユニッ

トから、情報科学研究院の長谷山美紀教授、保健科学研究院の矢野理香教授、獣医学研究院の石塚真由美教授、薬学研究院の小川美香子教授、理学研究院の黒岩麻里教授、歯学研究院の樋田京子教授が発表しました。北海道教

育庁記者クラブ加盟社等から9名の参加がありました。発表内容は以下のとおりです。

（社会共創部広報課）

発表事項（発表者）

- ・北海道大学におけるデータ駆動型融合研究創発の取組－ライフスタイルイノベーションユニットの設置－
（情報科学研究院 教授 長谷山美紀、保健科学研究院 教授 矢野理香、獣医学研究院 教授 石塚真由美、薬学研究院 教授 小川美香子、理学研究院 教授 黒岩麻里、歯学研究院 教授 樋田京子）

※発表資料掲載URL

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/org/pr/press-conference/R5.html>



発表を行う長谷山教授



発表を行う矢野教授



左から小川教授、石塚教授、長谷山教授、行松理事、矢野教授、黒岩教授、樋田教授

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額 (3月31日現在)

37,764件 6,328,420,081円

3月のご寄附状況

法人等27社、個人432名の方々から87,306,524円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名 (法人等)

アングルトライ株式会社、SPC病理診断科、株式会社MATコンサルティング、株式会社OHEN、株式会社開発調査研究所、特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所、株式会社キタシヨク、株式会社近海食品、株式会社久米設計札幌支社、サン・中部株式会社、NPO法人 シュマリナイ湖ワールドセンター、生活協同組合コープさっぽろ、株式会社ソニック、株式会社鷹栖町農業振興公社、工学部電子工学科第一期卒有志一同、月島機械株式会社、富井建設株式会社、日糧製パン株式会社、株式会社日立製作所、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、北海道フードフロンティア株式会社、茂田石油株式会社、リージョンズ株式会社、株式会社ルビシア

寄附者ご芳名 (個人)

合川 正幸	相澤 政明	藍 洋一	青木 俊介	青柳 潤	赤平 幸郎	浅岡 信行	阿部 昭敏
阿部島啓人	安陪大治郎	阿部 雅史	阿部 保彦	阿部ゆかり	阿部 价男	在田 郁子	有村 孝文
安藤 智章	安保 昌俊	五十嵐知也	池川 昌弘	池田 憲二	池端 嘉彦	石井 哲夫	石井 紀夫
石垣 隆弘	石川(宝田) 成夫	石黒晋太郎	石毛龍之介	石戸 洋子	石鍋 建彦	石丸 勝之	泉 定明
磯部 光宏	市坂 有基	伊藤 悦郎	伊藤 大貴	伊藤 雄大	伊藤 宏	伊藤 雄三	井藤 由親
伊藤 良介	犬島 和夫	井上 省三	井上 孝俊	猪股 路子	井原 博	入澤 秀次	岩崎 晃三
岩崎 俊	岩崎 哲也	岩佐 正章	上田 顕一	上田 廣司	上田 雅敏	植田 豊	氏野 隆
薄井 末男	梅本 由佳	江川 尚志	江口 晃一	江尻 哲男	江蔵 弘文	越前 俊哉	榎本 清之
江端 英隆	縁記 和也	遠藤 公憲	大内 全	太田 祐司	大坪 頼史	大野 雅史	大原 正範
大森 充廣	岡澤 太郎	岡田 一路	岡野 晋平	沖崎 遼	小木 聡	奥芝 義人	奥野吉之助
奥野 信博	奥山 憲一	小倉 建夫	小田原一史	音喜多 諭	小野寺 勝	小野 義紀	小原 大和
香川 幸一	梶本 信隆	桂 周	加藤 伸康	加藤 裕貴	角 幸博	金川 眞行	金澤 洋
神山 康明	茅野 禎二	萱場 基	川合 康文	川上 修	河口 宗道	川崎 敏博	河田 恭裕
川村 潔	河本 充司	菅野 卓治	菊地 竜也	岸並 正憲	北岡 善文	北寄崎 薫	北島 恵
北野 高広	衣川 暢子	木原 罔男	木村 淳一	木村新太郎	木村 祐介	木山 邦樹	桐尾 義之
櫛部 哲明	久保 和夫	熊谷 清貴	熊谷 久	倉田 博司	倉本 秀和	小池 章一	小池 秀正
河内 稔	上月 浩	越野 准次	小杉 淳一	小平 紘之	小竹 元己	児玉 淳一	後藤 克喜
木幡 浩	小林 賢人	小林 俊郎	小林 博	小林 道明	近藤 真一	近藤 和吉	今野 伸
齊藤 彰	齊藤 晋	齋藤 久	齋藤 寿則	坂恵 啓介	榊原 茂俊	坂本 大介	坂本 靖之
崎元 大志	崎山 幸雄	佐久間 純	桜小路光紀	佐藤 大三	佐藤 宣行	佐藤 昌嗣	沢渡 隆範

三升畑元基	志済 聡子	柴田 浩一	柴田 俊夫	島田 征敏	清水 友康	清水 哲也	清水 文彦
下村 守	新宮 康栄	新保 勝	菅原 由人	菅原 新也	杉江 和男	杉本 聡	杉本 雅則
鈴木 貴之	鈴木 英明	須藤 保	須藤 直	清野 康生	関 敦	関口信一郎	関崎 勉
関 信子	瀬名波栄潤	高木 茂	高瀬登志彦	高野 一男	高橋 順一	高橋 均	高橋 弓景
高柳 涼	武田 覚	竹田 正信	竹田洋一郎	館 隆司	田中 幸治	谷口 義恵	谷 哲雄
田畑佑希子	多谷 司	丹 一夫	丹治 道彦	土家 琢磨	寺澤 睦	外川 織彦	徳田 正満
戸島 知之	土橋 由造	豊田 威信	中井 正人	永喜多宗雄	永久保雅夫	永田 聖司	永田 誠
中野 勉	中野 平	中松 彰	中村 恭子	中村 拓真	中村 徹	中谷 誠	奈良 宏一
奈良林 直	南部 重夫	新美 大伸	西嶋 治	西田 廣治	西田 道雄	西田 実弘	西村 唯史
沼田 理香	根本 叔治	野口 靖夫	能瀬 香織	能登 宣彦	橋本 勝文	橋本 元	橋本 直幸
畠山 博	秦野 敦臣	幡谷 繁	花田 秀一	馬場 直志	羽部 邦昭	濱田 賢一	濱野 宏
早川 義彰	速水 水速	原田 浩	半澤 進	引田 淳	平野 哲夫	深谷 淳	深谷 健一
福井 伸明	福迫尚一郎	福士 憲一	福士 幸治	福永 悟郎	藤井 淑生	藤井 信明	藤井 博章
藤澤 裕子	藤田 活朗	藤田 栄	藤本 将行	藤原 英則	古川 俊実	古谷 恵一	星 貞雄
星野 健司	細木 功一	細野 義博	堀尾 瑠奈	堀川 幸悦	堀 雅弘	本田 昌實	本間 裕敏
増田 公一	増田 隆夫	増山 顕成	松井 耕二	松坂 徹	松島 進	松野 雄史	松原 謙一
松本 剛	松本 剛	松本 嶺	松屋 辰之	三浦 清	三上 剛司	水口 洋	水口 博喜
水谷 圭佑	御園生 潤	南田 大朗	三野 光明	宮倉 尚之	宮坂 和男	宮田 信幸	三好 秀洋
村井 英樹	村形 和夫	村上 泰一	村瀬徳啓充	村瀬 亮太	持田 尚毅	森岡 泰啓	盛田 祐一
森田 善行	矢嶋 剛	矢嶋龍三郎	柳 紘子	山口 良文	山崎滉一郎	山崎 司	山崎 信男
山崎 英俊	山下 智宏	山田 澤明	山田 茂樹	山田 勉	山田 朋人	山本 修	横田 篤
横山 考	吉沢 武治	吉田 茂	吉田 広志	米田 哲朗	米本 卓矢	若狭 哲	若林 寿夫
分島 亮	渡辺 研二	渡邊 伸弥	渡邊志のぶ	渡部 克将			

銘板の掲示 20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

(個人)

青柳 潤、阿部ゆかり、安保 昌俊、石戸 洋子、角 幸博、今野 伸、佐久間 純、沢渡 隆範、清水 哲也、土橋 由造、濱田 賢一、福迫尚一郎、水谷 圭佑、米田 哲朗、渡邊 伸弥

(法人)

株式会社久米設計札幌支社、リージョンズ株式会社

〈感謝状の贈呈〉



ニチレキ株式会社様 (令和5年3月10日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（社会共創部広報課）

きたキッチンで「北海道大学フェア」を開催

昨年、道産セレクトショップきたキッチン・オーロラタウン店で開催し、ご好評いただいた「北海道大学フェア」を今年も開催しました。今回はオーロラタウン店（4月5日（水）～11日（火））と新千歳空港店（4月5日（水）～18日（火））の2店舗での開催となりました。

本フェアは株式会社北洋銀行と株式会社北海道百科の連携企画によるもので、大学が開発に関わった食品等を販売すると同時に、商品開発に至るストーリーや商品に活用されている研究成果を一緒に伝えることで、商品のPR

と大学の研究成果の社会還元を目指しております。

北海道大学フェアでは、数ある北大認定商品の中から40アイテム近くを出店しました。

今回のきたキッチンに合わせて発売した「北大おかき 海洋深層水使用あおさ味」、北海道大学病院栄養管理部と当別町のレストランAriとの共同開発「MIND食」は、テレビ局の取材でも大きく取り上げられました。中でも、MIND食は連日完売になるほどの反響があり、開店と同時にたくさんのお客様にお越しいただき、また今後の

展開を期待する声もいただきました。

フェア初日には、寶金清博総長、増田隆夫理事・副学長にお越しいただき、各商品の担当部局である水産科学研究院や北海道大学病院栄養管理部の担当者へ激励をいただきました。

今後も、産学・地域協働推進機構では北大認定商品を通じたブランド力の向上と情報発信により、地域との連携と社会貢献に努めて参ります。

（産学・地域協働推進機構）



（左から）寶金総長、北海道大学病院企画マネジメント部 西田 睦准教授、北海道大学病院栄養管理部 熊谷聡美副部长、増田理事・副学長
（写真提供：社会共創部広報課）

国際連携研究教育局（GI-CoRE）バイオサーフィス創薬グローバルステーション（GSD）が「第3回GI-CoREバイオサーフィス創薬グローバルステーション（GSD）国際シンポジウム・第1回 学術変革領域研究(A)物質共生国際シンポジウム・第28回ファーマサイエンスフォーラム合同シンポジウム」を開催

3月30日（木）に、バイオサーフィス創薬グローバルステーション（GSD）が合同国際シンポジウムを開催しました。昨年度はオンライン開催でしたが、今年度は対面とオンラインのハイブリッド形式での開催となりました。

午前のセッションでは、本学の博士課程学生の指導もされた、米国デューク大学Michael Rod Zalutsky教授の基調講演（表題：Astatine-211 Labeled Targeted Radiotherapeutics: Recent Studies at Duke University）に続き、6名の若手研究者による講演が行われました。

午後のセッションでは、基調講演として、台湾Academia SinicaのSteve Roffler博士とBing-Mae Chen氏による講演（表題：Anti-PEG antibodies: The good, the bad and the ugly）、米国Selecta Biosciencesの主任研究員

Takashi Kei Kishimoto 博士による講演（表題：Preclinical and clinical development of synthetic ImmTOR nanoparticles to induce antigen-specific immune tolerance）、及び英国インペリアル・カレッジ・ロンドンの石原純講師による講演（表題：Molecular Engineering to Turn Immunity On and Off: Novel Vascular-Targeted Cancer and Autoimmune Disease Therapeutics）が行われ、現在の研究をご紹介します。

また、国内からの招待講演として、長崎大学の山吉麻子教授による講演（表題：Artificial nucleic acids and DDS for material symbiosis）、本学の大場雄介教授による講演（表題：Visualization, analysis, and manipulation of cell dynamics using bioimaging and optogenetics techniques and their

applications）が行われました。

約3年ぶりの本格的な国際シンポジウムの開催でしたが、午前午後ともに、白熱した質疑応答が英語で行われ、発表者だけではなく、学生を含む参加者もグローバルな意識を共有する有意義なシンポジウムとなりました。また、講演の合間にも研究や現在の状況について活発な情報交換が行われました。

参加者は、会場参加が51名、オンライン参加は22名となり、盛況なシンポジウムとなりました。今後、このシンポジウムで得られた知見が研究者だけではなく、グローバルな創薬研究教育の発展に寄与することが期待されます。

（国際連携研究教育局）



Steve Roffler博士の講演の様子

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 北海高校、札幌龍谷高校で5名の教員が講義を実施

3月10日（金）、17日（金）北海高校、3月14日（火）札幌龍谷高校の生徒に向けて、5名の教員が講義を実施しました。

「新薬開発で動物も病気から救える時代に」 獣医学研究院 教授 今内 覚

研究室の学生達が取り組む具体的な研究内容や、志望動機などにも触れながら、本学の獣医学部や幅広い獣医師の仕事について紹介しました。また、2018年のノーベル賞受賞で話題となった、がんの免疫療法の原理を解説。つづいて、今内教授たちが開発したイヌ

のがん治療に有効な「免疫チェック阻害薬」の臨床研究の成果について紹介しました。飼い主からの手紙に励まされながら、動物のがん治療薬の実用化に向けて一歩ずつ前進していると話しました。



獣医師の幅広い仕事について話す今内教授

「蛋白質とあなたの健康・その深い深い関わり」 先端生命科学研究院 教授 相沢智康

多くの人が栄養素として挙げることの多いタンパク質。機能や構造について研究を続ける相沢教授は、タンパク質は人間にとって最も重要な働きをしていると話します。「ゲノムマップ」（文部科学省発行）を用いながら代表的なタンパク質について解説し、私た

ちが生きていくうえでどれほど深く関わっているか、そして、タンパク質を調べ応用できるようになれば、様々な研究・医療・産業に利用できるようになると、タンパク質の可能性について生徒たちへ話しました。



ゲノムマップを手に生徒の質問に答える相沢教授

「動物問題は人間問題」 大学院教育推進機構 CoSTEP 特任講師 池田貴子

池田特任講師は、人と野生動物の共生について考える活動を行っています。講義では、生徒たちに自分で想像するキツネの絵を描かせたり、都市ギツネの実際の映像などを見せながら、キツネの生態やエキノコックス症につ

いて解説しました。人によるキツネの餌付けによって生じる問題や、他の野生動物への影響についても学んだ生徒たち。身近な問題として、人と野生動物の共生について考える貴重な時間となりました。



生徒たちへ人と野生動物の共生について話す池田特任講師

日 時：2023年3月14日（火）14：25－15：15

会 場：札幌龍谷学園高等学校

参加生徒：1－2年生 約94名

「原生生物のジオラマ行動力学」 電子科学研究所 教授 中垣俊之

真正粘菌が迷路や鉄道網設計などの問題を解く能力があることなど、具体的な事例を紹介しながら、真核性の単細胞生物である原生生物の知られざる生態と行動について解説しました。後半は、生徒たちが1人1台顕微鏡を使用

して、中垣研究室で飼育している16種類の原生生物を観察。研究室の学生たちが各グループに1人つき、サポートしました。原生生物たちが見せる特異な行動に、時折歓声があがっていました。



真正粘菌について解説する中垣教授

日時：2023年3月10日（金）13：30－15：00

会場：北海高等学校

参加生徒：1－2年生 36名

「数学で知る腸内環境」 先端生命科学研究院 准教授 中岡慎治

近年、腸内細菌の変化が、糖尿病といった生活習慣病に深く関わっていることが分かってきました。生命科学と数理科学の異分野融合研究に挑む中岡准教授は、健康状態を維持・制御するために、腸内細菌や免疫システム、食と代謝の関わりを論理的に理解する研究事例を紹介しました。インターネット上で公開されているデータを数学や物理の知識で解析することで、「医学に携わっていない人でも医療に貢献できる時代が訪れている」と、高校生たちに語りました。



生命科学を数理科学で理解する研究について解説する中岡准教授

日時：2023年3月17日（金）17：00－18：30

形式：オンライン

参加高校：北海高等学校

参加生徒：1－2年生 32名

アカデミックファンタジスタとは？

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、「アカデミックファンタジスタ (Academic Fantasista)」。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。2022年度は札幌近郊の高校等を対象に22名の教員が講義を実施しました。

北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、Facebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご覧ください。

- ・リサーチタイムズ
- <https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/>
- ・Facebook
- @Hokkaido.univ.taiwa



リサーチタイムズ



フェイスブック

(広報・社会連携本部
広報・コミュニケーション部門)

■ 部局ニュース

令和5年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第3期生採用式を開催

4月5日（水）、令和5年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第3期生採用式が理学部本館大会議室にて執り行われました。このプログラムは、博士後期課程の大学院生に対して、専門分野の研究にとどまらず、スマート物質科学力、並びに社会実装実現力を養成するものです。

武次徹也コーディネーターが3名のプログラム生に認定証を授与しました。

会場となったのは90年以上の歴史がある理学部本館大会議室です。第3期生として採用された博士後期課程の3名は、これから数理学と計算科学、データサイエンスを学びながら異分野融合あるいは産学官連携にも取り組み

ます。

詳細はウェブマガジンPh.Discover <https://phdiscover.jp/phd/article/1973> をご覧ください。

（総合化学院・理学院・工学院・環境科学院・生命科学院・情報科学院）



3期生集合写真



武次コーディネーター



採用式の会場となった理学部本館大会議室

先端生命科学研究院の業績功労者を表彰

先端生命科学研究院では3月31日（金）に業務功労者の表彰を行いました。

本研究院では、令和4年度から「先端生命科学研究院業務功労者表彰」という新しい制度を制定しました。本制

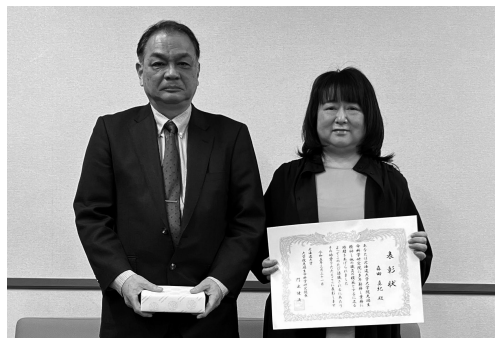
度では、「本研究院の職員のうち、その功労が顕著で、他の職員の模範となり、在職期間が概ね10年以上の者」で、かつ、「教育研究支援において顕著な功績のあった者」等を表彰します。

本制度の最初の該当者として、水口由枝特任助手、長谷川詠子特任助手、森田真紀特任助手が表彰されました。

（先端生命科学研究院）



表彰状を受け取る水口特任助手



表彰状を手にする森田特任助手（右）

歯学研究院でAMED申請セミナーを開催

歯学研究院では、3月30日（木）にAMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）申請セミナー「AMEDを取りに行こう！」を開催しました。

科学研究費補助金に関しては、昨年9月に、URAステーションの協力により科学研究費の応募件数及び採択率の向上のためのセミナーを開催していましたが、その後所属の研究者等に対して行ったアンケートの結果、AMEDなどの競争的資金を獲得している研究者から実際の申請書の書き方や工夫点などについて話を聞いてみたいとの意見が多数寄せられたことから、前回同様、歯学研究院とURAステーションの共同企画として開催されたものです。

当日は、URAステーションの佐藤崇URAの司会進行の下、若手ながらAMEDの事業への採択実績のある歯学研究院の間石奈湖助教、及び長谷川智香准教授から、実用化を見据えた研究提案とすることや、不採択でもめげずに評価委員のコメントを参考として次の申請へ繋げること、申請書を事前に他分野の研究者に読んでもらい言葉足らずを防ぐことなど、自身の経験から臨場感のある説明がありました。

次いで、北海道大学病院臨床研究開発センターの林 宏至特任講師（現歯学研究院准教授）から、「AMEDで採択されるためには？～AMEDの仕組みを知ろう～」と題して、病院での豊

富な経験に裏打ちされた数多くの有益なアドバイスがありました。

終了後に行ったアンケートでは、「相談できる方が部局内にもいることがわかり、心強く感じた」「めげずにトライしたい」などの感想の他、「AMEDだけではなく、JSTなどのセミナーもあると嬉しい」「科研費の申請セミナーを早い時期にやっていただけるとありがたい」との要望も寄せられるなど、各種研究費への申請意欲に刺激を与えるよい機会となりました。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



説明後の質疑応答の様子

工学研究院が北海道ガス株式会社と連携協定締結式・記者会見を開催

3月29日（水）、工学研究院は北海道ガス株式会社と連携協定を締結しました。

同日、工学研究院で行われた協定締結式及び記者会見には、北海道ガスから大槻 博代表取締役会長、川村智郷代表取締役社長が、工学研究院から瀬戸口剛工学研究院長（当時）、幅崎浩樹副研究院長（当時）が出席しました。

本協定は、「エネルギーと環境の最適化による快適な社会の創造」を目指し、北大工学研究院と北ガスの緊密な

連携のもと、カーボンニュートラル社会の構築へ向け、相互の発展に寄与するとともに、地域社会の創生と社会課題の解決に貢献することを目的として締結するものです。

具体的には、従来から19年間続いている研究助成の実績に基づいて、両者の持つ知見や人材を最大限に活かし、研究・教育活動の拡充や人材育成・交流をより強力に推進し、工学的知見により社会課題の解決に取り組んでまいります。

■連携協定に基づく取り組み

- (1) 研究技術交流の拡充
- (2) エネルギーと環境先端技術に関する教育活動
- (3) 相互出向等による人材交流の促進
- (4) 研究技術・人材育成交流に寄与するラボの設置の検討

※本協定には北大工学研究院の他に工学院及び工学部を含む。

（工学院・工学研究院・工学部）



左より、幅崎副研究院長（当時）、瀬戸口研究院長（当時）、北ガス大槻代表取締役会長、川村代表取締役社長

セブン-イレブン北海道大学工学部店オープン

工学系団地で活動する学生・教職員のための福利厚生施設として、フロンティア応用科学研究棟内に、「セブン-イレブン北海道大学工学部店」が完成し、3月31日（金）に開店しました。

本店舗は、食料品・日用品の販売、並びに、宅配便の取扱い、セブン銀行ATM、住民票や印鑑証明なども取得できるマルチコピー機が設置され、通常の店舗と同様の商品・サービスの提供を行うほか、北海道大学オリジナルグッズの取扱いをしています。

また、大学内コンビニエンスストアにおけるIT・DXの推進、及び商品購

入時における混雑緩和のため、レジに並ばず買い物ができるように、ご自身のスマートフォンで決済が可能な次世代型スマホレジが導入されています。

開店に先立ち、3月29日（水）にはオープニングセレモニーが行われ、株式会社セブン-イレブン・ジャパン幅崎哲央北海道ゾーンマネージャー、セブン-イレブン北海道大学工学部店の村山和良オーナー、瀬戸口剛工学研究院長（当時）、幅崎浩樹副工学研究院長（当時）、佐々木博之工学系事務部長（当時）が出席し、紅白のテープにはさみを入れ開店を祝いました。

セレモニー後には、プレオープンとして内覧会が行われ、多くのお客様が真新しい店舗での買い物を楽しましました。

これからも、近くて便利「セブン-イレブン北海道大学工学部店」に、皆様のご来店をお待ちしております。

「セブン-イレブン北海道大学工学部店」

営業時間：7時から21時

休業日：年末年始、入学試験実施日、
全学停電実施日

（工学院・工学研究院・工学部）



左から村山オーナー、幅崎マネージャー、瀬戸口研究院長（当時）、幅崎副研究院長（当時）、佐々木事務部長（当時）



セブンカフェを利用する瀬戸口研究院長（当時）



北海道大学オリジナルグッズコーナーにて

水産科学研究院と北海道美深町及びソフトバンクが次世代のチョウザメ養殖のための産学官連携協定を締結

3月28日（火）、水産科学研究院と北海道美深町（以下「美深町」）及びソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）は、IoTやAI、バイオロジーを活用した実践的な養殖チョウザメの優良系統の確立を目的とした産学官連携協定を締結しました。協定式は同日にソフトバンク竹芝本社（東京都港区）にて執り行われ、水産科学研究院からは都木靖彰研究院長と今村 央教授が参加しました。

はじめに都木研究院長、美深町の山口信夫町長、ソフトバンクの北澤勝也テクノロジーユニットコーポレートIT本部長から挨拶と抱負が述べられ、調印後には「次世代チョウザメのための産学官連携協定記念講演」が行われま

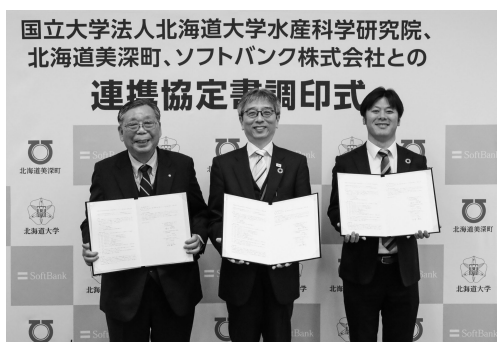
した。水産科学研究院からは、今村教授が『チョウザメプロジェクトにおける形態学の役目』と題し、本協定における水産科学研究院の役割を解剖学・生態学の知見から講演しました。

養殖業にとって「良いチョウザメ」の定義は確立されておらず、キャビアの品質だけではなく、身のおいしさ、成長スピードなど、養殖されるチョウザメの種類や養殖環境等によっても「良いチョウザメ」の定義は異なります。チョウザメは、飼育開始からキャビアの出荷まで6年以上の飼育期間が必要で、未熟な卵が成長を始めてから一瞬でも環境汚染が発生すると、キャビアの品質に多大な影響を及ぼすとされており、品質を担保することがとて

も難しい魚種です。育成期間を可能な限り短くすることで、品質低下のリスクを減らすことが可能になります。

本連携協定によって、水産科学研究院のチョウザメの生物学的知見、美深町の高い飼育技術、ソフトバンクのIoTやAIが密接に連携し、プロジェクトの推進を図ることが可能になります。今後、チョウザメの養殖における優良系統をつくることで、低価格で高品質なキャビアの生産を行うだけでなく、水産分野における新たなテクノロジーの確立を目指します。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



左から、山口美深町長、都木研究院長、北澤本部長



今村教授による講演



連携協定による役割概念図

東アジアメディア研究センター主催のジャーナリズムシンポジウムを開催

メディア・コミュニケーション研究
院の東アジアメディア研究センターは
4月8日（土）、シンポジウム「“越境
ジャーナリスト”が見た中国、日本、
アジア」を、学術交流会館にて開催し
ました。

本シンポジウムではまず、ルポライ
ターの安田峰俊氏と、中国紙『南方都
市報』『南方週末』などで国際調査報道
に携わった中国人ジャーナリストの秦
軒氏が自身の取材経験に基づき基調報
告を行いました。『八九六四：天安門事
件』は再び起きるか』（KADOKAWA）
で城山三郎賞と大宅壮一ノンフィクショ
ン賞を受賞した安田氏は、近著『北関
東「移民」アンダーグラウンド』（文藝
春秋）で、北関東のベトナム人不法滞
在者を通じて日本社会の現実を問題提
起しました。秦氏も、国境を越えた現
地取材を通じ、「中国」を再評価する
報道を展開しています。2人とも日中
の「越境ジャーナリスト」の代表格と
も言える存在です。

基調報告で安田氏は、2022年11月末
に中国で若者がゼロコロナ政策に反旗

を翻した「白紙運動」に触発されて東
京・新宿でも起こった抗議運動を取
材した経験を基に、「中国ネット反体制
運動」の変容について報告しました。
その中で2012年までの胡錦濤前政権期
の運動が、人権や民主主義など普遍的
価値観を重視した「きれいな語彙を使
ったもの」だったのに対し、習近平国
家主席が言論統制を一段と強化した
2017年以降の運動は、「情報の暴露、
侮辱的コラージュなどの『悪い』手
段も辞さないものだ」と指摘。白紙運
動は「きれいなものとドロドロしたも
のが複合した運動」と分析しました。

「なぜ私は中国の読者に向けて北朝
鮮報道を行うのか」をテーマに報告し
た秦氏は、「中朝は共にレーニン・ス
ターリン体制で権力が集中する国家で
あり、今の北朝鮮にはかつての中国を
見ることができ、中国にまだ起こっ
ていない変化も見取れる」と述べま
した。

基調報告に続いて、パネルディスカ
ッションに移りました。現代中国を研
究する東京大学大学院の阿古智子教授を

コーディネーターとして、安田氏と秦両
氏に、北海道大学メディア・コミュニ
ケーション研究院助教で、中華圏ジャー
ナリストでもある台湾人の許 仁碩
氏も加わり、中国報道の難しさをめぐ
り議論しました。秦氏は、「すべての
読者を満足させることはできない。異
なる視点、観点、立場を持った読者の
懸け橋になり、共通理解を得られる報
道が続けていきたい」と述べました。
最後に阿古氏は「戦争も起こる時代
で、どうしても感情的になってしまう。
人間として何を見るか、表現する
か、研究者もジャーナリストも一緒に
考え、発信していきたい」と総括しま
した。

本シンポジウムには、オンライン配
信も併せて90人以上が参加しました。
読売新聞がシンポジウムの模様を報道
するなど社会発信面でも成果がありま
した。

（メディア・コミュニケーション研究院）



シンポジウムでの安田氏の基調報告の様子

環境健康科学研究教育センターがG7環境大臣会合に先駆けた若者との共創プロジェクトを開催

環境健康科学研究教育センターでは、3月21日（火・祝）に学術交流会館第一会議室において、若者との共創プロジェクト第1回若者検討会を開催いたしました。

本イベントは、4月に札幌市でG7環境大臣会合が開催されることを機に、地球環境対策の勉強会とディスカッションを行い、地球環境により変化を実現することを目指す、若者×大学×自治体×企業の連携プロジェクトです。

当日は山内太郎センター長が登壇し、「次世代のちからで未来の地球を共創する」と題し、1万年数千年におよぶ人類の歴史を振り返り、人口増加と環

境問題について概説した後、途上国の都市スラムにおけるサニテーションの問題について、その解決に向けて若者が中心となって行っている活動（ザンビア共和国で設立した子どもクラブ）について講演を行いました。

続いて、札幌市環境局の佐竹輝洋環境政策担当係長と参加者によるディスカッションが行われ、最後に参加者及び登壇者がグループワークを行いました。会場の3つのグループとオンライン参加の2グループが、地球、世界、そして北海道地域の抱える課題と、30年後の理想の姿に向けてどのように課題解決ができるかについてそれぞれの

テーマを話し合いました。

全3回の若者検討会の後、4月15日（土）には札幌ドームで開催された環境広場ほっかいどう2023において、「若者が自治体と企業と共創したいACTIONリスト」のプレゼンテーションを行い、北海道知事・札幌市長・環境副大臣・若者・企業のトークセッションを行いました。

若者、大学、自治体、企業が一体となり、市民の皆様とSDGsについて考える大変よい機会となりました。

（環境健康科学研究教育センター）



山内センター長の講演



グループ討論の様子



各テーマの課題を挙げていく参加者

脳科学研究教育センター脳科学専攻の開講式を挙行

脳科学研究教育センターでは、4月6日（木）に医学部百年記念館大会議室において、今年度入学した履修学生の開講式を行いました。

はじめに、田中真樹センター長（医学研究院教授）から、祝辞とともに脳科学専攻の特色ある教育体制や研究指導内容について説明があり、「センターが主催するシンポジウムや合宿研修、修了発表会、指定セミナーなど様々なイベントを通じて、所属部局や

出身学部、研究対象、実験手法、職種、課程、学年などの垣根を越えた研究交流を図り、視野の広い専門家とされるよう頑張っていたきたい」との激励がありました。

引き続き、出席したセンター教員と履修学生の自己紹介の後、関あゆみ教務専門委員会委員長（教育学研究院教授）から、修了要件についての説明と履修に関するガイダンスがありました。今年度も新型コロナウイルスの感

染拡大防止のため、新入生歓迎交流会は中止となりましたが、参加者は所属学院を超えて脳科学研究を学ぶ期待に胸を膨らませていました。

本専攻には、今年度8名の履修学生（修士課程7名、博士後期課程1名）が加わり、全体では28名の履修学生が在籍することになります。

（脳科学研究教育センター）



田中センター長より祝辞



ガイダンスを受ける履修学生



新しく加わった履修学生とセンター教員

■ 研修

令和5年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

開催日：令和5年4月13日～14日

開催方式：北海道大学学術交流会館第一会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の職員としての心構えを自覚させるとともに、初任職員として必要な基礎的知識を付与することを目的とする。

主催部局：総務企画部人事課



訓示（寛金総長）



特別講話（長谷川副理事）



受講風景



グループワーク

■ 人事

令和5年4月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【課長】 (転出) 原子力規制委員会原子力規制庁原子力規制部実用炉審査部門管理官補佐(調整担当) (併) 原子力規制部実用炉審査部門安全審査官 (併) 原子力規制部新基準適合性審査チーム員 (併) 原子力規制部安全性向上評価チーム員	寺 野 印 成	総務企画部企画課長

令和5年5月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院医学研究院教授	吉川 雄朗	東北大学准教授
【課長】 総務企画部企画課長 医学系事務部総務課長	小澤 嘉磨 木村 美佳	医学系事務部総務課長 国際部国際企画課課長補佐

新任教授紹介

令和5年5月1日付



医学研究院教授に

よしかわ たけお
吉川 雄朗 氏

薬理学分野 神経薬理学教室

生年月日

昭和52年9月26日

最終学歴

東北大学大学院医学系研究科（平成20年3月）
博士（医学）（東北大学）

専門分野

神経薬理学、糖鎖生物学

新任部課長等紹介

令和5年5月1日付



医学系事務部総務課長に

きむら みか
木村 美佳 氏

昭和44年 6月生

平成 4年 4月 北海道大学

平成22年10月 北海道大学農学事務部係長

平成24年 4月 北海道大学獣医学研究科・獣医学部係長

平成27年 4月 北海道大学総務企画部企画課係長

平成30年 4月 北海道大学研究推進部産学連携課係長

令和元年10月 北海道大学国際部国際企画課課長補佐

令和 5年 5月 北海道大学医学系事務部総務課長

訃報

名誉教授 飯田 正一 氏
(享年99歳)



名誉教授 飯田 正一 先生が令和5年4月9日にご逝去されました。

飯田先生は、昭和23年に北海道大学医学部を卒業され、昭和27年に北海道大学医学部助手に採用されました。その後、昭和28年には同講師、昭和30年に同助教授に昇任され、昭和43年には北海道大学歯学部の新設に伴い同学部

教授として口腔病理学講座、ついで歯科薬理学講座を担当されました。昭和62年に定年退官され、北海道大学名誉教授の称号を授与されました。先生は北海道大学医学部に15年6ヶ月、歯学部で19年、計35年余の永きにわたり、基礎医学及び歯学の分野で教育研究に従事し、幾多の優秀な人材を育成するとともに顕著な研究成果をあげました。

先生の初期の研究テーマはアルコール代謝と習慣の問題であり、この研究で昭和29年に北海道大学から医学博士の学位を授与されました。その後、アルコール代謝に関する研究を通してミシガン大学医学部の薬理学教室に留学され、精神異常と関連が深いとされていたアルコール中毒症が、薬物依存の一型であることを動物実験により証明されました。歯科薬理学教室教授としては、教室員とともにナトリウムポン

プの分子構造変化に関する研究を展開し、世界的な学術誌に多数の論文を公表しました。これらの研究は、ナトリウムポンプ研究の分野においても高い評価を受けました。

この間、先生は北海道大学評議員などの要職をつとめられ、部局並びに大学の運営管理に貢献されました。また、学外においては多数の学会で評議員をつとめ、日本薬理学会、歯科基礎医学会の名誉会員に推挙されています。

このように、飯田先生は教育研究上の業績はもとより、本学の管理運営にも寄与され、薬理学分野においても大きな貢献をされました。

ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(歯学院・歯学研究院・歯学部)

編集メモ

- キャンパス内にオシドリがやってきました！オシドリは、「つがいになるといつも一緒にいる」という習性があります。諸説ありますが、いつも一緒にいる仲の良い夫婦を「おしどり夫婦」と表現するようになったのは、このオシドリの習性が由来していると言われています。緑あふれる札幌キャンパス内では、札幌都心とは思えないような、さまざまな野生動物と出会うことがありますね。



裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は、医学部前の八重桜です。この桜は、医学部30期30周年を記念して1984年に植樹されたものです。それから約40年間成長し続け、毎年春になると立派な花を咲かせます。いつかこの桜のように満開に咲き誇る日を夢見て、私たちが地道な努力を積み重ねていきたいですね。

キャンパス風景 **38** 医学部（北15条西7丁目）



北大時報 ⑤ No.830 令和5年5月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>